

マルソーのところを出たあとにコンテンポラリーダンスを習いました。そこで、弊害がでました。ダンスにおいて、身体が自由に動かないのです。といいますのも、やはり学校でみっちりスタイル、マイムで語ることをやっていたのでどうも身体がストレートに動いてくれない。例えば、甘いと言う感覚をダンスで踊ればひとそれぞれの踊り方があって当然なのですがどうもこう、しっかりとこない。どうやら何かの物に対してMIMICで見せると言う思考回路になってしまったのです。ただ甘い物を食べたと言ってもドラマは生まれませんので、そこからテキスト的に考えてしまう。と言うかながれや、見えるかな、が多い。踊ってる時はそんなこと考えませんが、どうもテキストと言うかや流れを作ってしまうところがありイメージにのってからだがずっと流れて動いていってくれない。やはり僕は演じる人なのかなと思った物です。つまり、マイムは一度感じたもの、もしくは演技上の物をあらためて感じ、その行為を客につたえて、物語を発展していく。キャラクターになる。物になる、まねる。見えない物と対峙する、つくりだす。行為によってドラマをつくり出すのだと思います。しかし、昔から感じて、身体が自然と動くと言う事が好きでした。風になるとか、雲を見て動くとか、踊るとか、歌うとか。叫んだっていいじゃないか。自分の持っているイメージとどんだけ仲良くするか。その事に関しては、もっともっとやっていきたいと思っています。ただ、マイムが自分の中のベースとなっている物でありますので、大切にやっていきたいと思っています。そして現在マイムとパフォーマンスと言う事でやっております。テクニックとイメージ。はっきりとマイムで語ることも好きです。世の中すばらしいドラマがあります。よりイメージの世界で身体を動かすことによって感じ、より出てくる物があります。そして、身体その物とエネルギー、宇宙との事もじっくり感じていきたいと思っています。この前パリで取材を受けた時にあなたの芸術の原泉は何ですかと問われて、その瞬間にパッと答える事が出来ませんでした、今はわかります、生きている事すべてです。

